

ほっと すぺ〜す

No.148
2023・2



全国手をつなぐ事業所協議会ニュース

今号では

◆動画研修「虐待防止研修・身体拘束適正化」を配信しています
(大阪市)



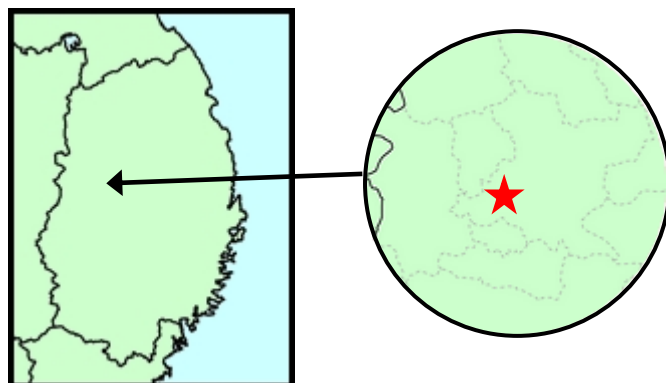
【盛岡書房の皆さん】

全国の事業所から

(特非) いわてパノラマ福祉館

盛岡書房


《岩手県 盛岡市》




ほっとすぺ～す

No.148 2023年2月発行

今号の目次

- 3  動画研修「虐待防止研修・身体拘束適正化」を配信しています（大阪市）

- 4  **にこっと、HOT！**
第27回がまだす大会を開催しました
（社会福祉法人 島原市手をつなぐ育成会）

- 6  **On The Frontline ～ 前線に立つ ～**
小さな事業所でも必要な人がいる。
地域の人との繋がりを大切に！
特定非営利活動法人 かも・かけはし
輪輪かけはし（岡山県 津山市）
管理者 武川 広子 さん

- 12  **全国の事業所から**
盛岡書房（岩手県 盛岡市）

- 16  編集後記

地区協議会より

動画研修「虐待防止研修・身体拘束適正化」を配信しています（大阪市）

先月号でも掲載していますが、令和3年度の制改正で、虐待防止推進と身体拘束等適正化から、一部で努力義務とされていた事項がありましたが、令和4年度からは次の全ての事項について義務化されています。

- ・ 従業者への定期的な虐待防止研修の実施
- ・ 虐待防止委員会の定期的な開催と委員会での検討結果の従業者へ周知徹底
- ・ 虐待の防止等のための責任者の設置
- ・ 従業者への定期的な身体拘束等適正化についての研修の実施
- ・ 身体拘束等の適正化のため対策を検討する委員会の定期的な開催と委員会での検討結果の従業者への周知徹底
- ・ 身体拘束等の適正化ため指針の整備

※虐待防止の取組で身体拘束等適正化について取り扱う場合には、身体拘束等の適正化に取り組んでいるものとみなされます。

なお、令和4年度の全面義務化により、これらの取り組み（各事業所の運営規程に掲載済）が満たされていない場合は、基本報酬から身体拘束廃止未実施減算として1人あたり5単位/日が減算されることになっているため、研修の実施記録についても作成しておく必要があります。

大阪市の事業所協議会では、これまでの努力義務から義務化に変更された事項のうち、「従業者への定期的な虐待防止研修実施」と「従業者への定期的な身体拘束等適正化についての研修の実施」は、小規模な事業所だけでは取り組みにくいこともあり、事業所協議会で研修動画の配信を実施しています。

今回の動画研修は、栃木県主催の虐待防止研修でも講師をされている（一社）全国手をつなぐ育成会連合会の副会長であり、（一社）栃木県手をつなぐ育成会の会長でもある小島 幸子氏に家族からの立場も踏まえ、「当事者家族の声を聞く～根底にあるのは人権擁護！本人中心～」をテーマに、虐待防止ならびに身体拘束等の適正化について解説していただきました。



研修については、小規模な事業所では取り組みにくいと意見もあり、近畿ブロックの事業所協議会の皆さまにも動画を提供しました。

※ 研修動画（72分）URL（配信期限：令和5年3月31日まで）

<https://youtu.be/L7KWah400w8>

（社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会 飯塚 聡）



にこっと、HOT! ～ちょっと、イイ話～

「にこっと、HOT！」障害福祉の現場ではついつい厳しい話も多くなってしまいがちです。しかしよくよく見ると毎日の現場では笑い声が絶えません。ついニヤニヤしてしまったり、ほろっとすることが日常の中に隠れています。

第2回目は長崎県島原市からです。

第27回がまだす大会を開催しました 社会福祉法人 島原市手をつなぐ育成会 (長崎県 島原市)

長崎県の東部に位置する島原半島には、雲仙普賢岳を取り巻くように3つの市(島原市・南島原市・雲仙市)があります。

今回ご紹介する「がまだす大会」とは、島原半島にある3つの市の障害福祉に関わる人たちが一体となる大会です。大会名称にある「がまだす」とは九州北部地域の方言で「がんばる」を意味する言葉です。



大会は1985年(昭和60年)12月に、障害のある人たちの理解促進を目的に「障害者の日記念マラソン大会」として、島原城周辺をコースに仕立ててスタートしたものが前身になります。当時は島原市手をつなぐ育成会が主催し、市内の2団体の協力で、市内小学校にも呼びかけをして、オープン参加で児童を受け入れて実施しました。当時は予算もないため、選手の全てのゼッケンは育成会のお母さん方の手作りであり、ミシンで縫い、油性マジックで番号を書き、約600枚を作っていました。

年々、島原半島の3市域から共催する団体も増え、毎年の開催をしていく中で、開催日を参加選手の体調を考慮して12月開催から4月開催に変更したり、コースを交通量が多

い島原城周辺コースから安全確保のため島原市営陸上競技場へ変更したり、障害の重い人たちを中心とする大会に変化していく等して、「がまだすマラソン大会」に名称も変更しました。マラソン大会と言っても、障害の重い人たちが中心に参加するため、走行距離も50m、100m、200m、400m、800m、1500mと比較的短い距離で設定をしていました。短い距離といっても障害の重い人たちにとっては、50mであっても大きな挑戦になります。数分かけて必死に走る姿、その姿を応援する仲間たち、職員、応援者が一体となり会場は感動に包まれる大会でした。

このような形態で約25年間続きましたが、全国的に広がった新型コロナの影響もあり、2020年度（令和2年度）は中止となりました。それでも翌年度には、共催団体の職員で組織する実行委員会で、「コロナ禍であるが、利用者の皆さんが楽しみにしている。何かやろう」という皆さんの情熱もあり、本人発表とオンラインによる50mタイムトライアルを実施しました。

今年度は、さらに2団体が増えて島原半島の3市域の12団体で実行委員会を組織し、「第27回がまだす大会」を実施しました。

2022年度（令和4年度）は、テーマを「みんなでつながる島原半島」として、交流が難しいコロナ禍でもあることから、11月18日（金）に島原市福祉センターでの参集とオンラインにより開催するといった変則的な開催となりました。

第1部は会場にて本人発表をしました。島原半島の雲仙市・島原市・南島原市の福祉関係者をお招きし、3市域から各1名の合計3名の本人さんから直接、生活の様子や将来のこと、法人に対する要望等の生の声を出していただき、聴いていただきました。

第2部は、オンラインで各事業所をつなぎ、玉入れタイムトライアルやアトラクションの発表を行いました。オンラインでありましたが、利用者・職員とも画面を通してお互い交流しながら応援をしあい、新鮮な体験でもありました。



【車いすダンスの発表の様子】

準備を進めるにあたり、各事業所の代表で組織する実行委員会では、管理者・ベテラン職員・中堅職員・新人職員と役職も経験もバラバラでしたが、団体の枠を超えて同じ目的に向かい、皆さんが自由な発想で話し合い、実践していただきました。新たなことを実施するためには多くの課題もありますが、参加団体も増えてきており法人や職員間の交流の場になりました。

まさに、テーマの「みんなでつながる島原半島」 そんな大会です。将来的には、島原半島の障害福祉を底上げする活動になればとも期待をしています。

（社会福祉法人 島原市手をつなぐ育成会 統括管理者 菅 敏洋）

On the frontline

～前線に立つ～

「On the frontline –前線に立つ–」では、障害福祉を前線で支える「人」にスポットライトを当てます。全国各地で障害福祉に携わり奮闘されている皆さんにお話を伺い、その活動を広く皆さんに伝えていく企画です。今回で12回目となります。

今回ご紹介するのは武川 広子さん。岡山県津山市加茂町にある、NPO法人かも・かけはし 就労継続B型事業所「輪輪かけはし（りんりんかけはし）」の管理者をしていらっしゃいます。初めて女性の対談者です。

津山市は人口が約10万人弱。岡山市の北に位置し、JR津山線の快速で1時間30分。かつては美作（みまさか）と言われていた歴史ある地域。そこから更に津山からJR因美（いんみ）線で美作加茂（みまさかかも）まで30分、あと少しで鳥取県という山に囲まれた人口約3,700人の加茂町に「輪輪かけはし」（加茂福祉センター内）があります。事業所での主となる作業は、天然酵母のパンの製造販売。月に5回程焼いて、加茂町内の病院・施設への販売や、津山市内の事業所や施設に販売をしているとのこと。

第12回

小さな事業所でも必要な人がいる。
地域の人との繋がりを大切に！



特定非営利活動法人 かも・かけはし
就労継続B型事業所「輪輪かけはし」
管理者 武川 広子 さん

【松崎】 それではまず、武川さんご自身のプロフィールを教えてください。また、この仕事に就くきっかけは何だったのかお話しいただきたいと思います。

【武川】 はい、よろしくお願いします。

私は、1961年に当時の広島県 比婆郡 東城町（現：広島県 庄原市 東城町。「ヒバゴン」で有名になりました。）の生まれです。高校までは東城で育ち、保育士になるために、新見女子短期大学（現：新見公立大学）の第1期生となりました。その新見女子短期大学の1年生の実習の時、津山では大きな知的障害者施設である「津山みのり学園」へ実習に行きまし

た。そこでの実習体験がとても面白く、就職したいと思ったことがこの仕事に就くきっかけとなりました。

【松崎】 そうですか。保育園の先生になりたいと思って障害者施設で実習したことが発端だったんですね。

【武川】 はい。ただ、私が卒業するときには職員の募集がなかったので、1年勉強をしようと思って、岡山大学教育学部の臨時養護学校（精神薄弱教育）教員養成課程に入学し修了しました。その後津山みのり学園に就職をしましたが3年勤めて、結婚・出産のため退職しました。ちなみに主人とは職場結婚で、主人は定年までみのり学園に勤めました。

現在、主人は「輪輪かけはし」に週3回程手伝いに来てくれています。私は息子・娘を出産して津山で生活していましたが、主人の実家がある加茂町に息子が6歳の時に帰りました。実家には義父と義母がいました。

そこでは家の目の前に出来た整骨院の受付を午前中、12年間勤め、その後、縫製会社の事務の仕事をするようになりました。この時にパソコンを習ったり、ダイレクトメール作りをして、かなり事務関係の仕事ができるようになりましたね。



【輪輪かけはしの外観】

【松崎】 ご主人のご実家のある場所が津山市加茂町、今の輪輪かけはしの場所ということですね。輪輪かけはしとはどうして繋がったのでしょうか。

【武川】 しばらく事務の仕事をしていましたが、ずっと続けるのかと迷っていました。その頃、作業所が職員を探していると知り合いから聞き、現場の仕事からずっと離れていたのだからかなり悩みましたが、親しくしていた児童館の先生に勧められたこともあり、勤めることにしました。それが2007年（平成19年）9月でした。

【松崎】 地域の中で子育てをしながら、地域の繋がりがたくさん出来ていたということでしょうか。

【武川】 はい。地域の活動は母親クラブでの活動や、子どもが小学校に入るとPTAの役員を務めたり、教育委員をさせてもらったりと地域の方との関りが大きかったですね。入職する前に、前任の方が倒れ、とても大変な時だったので、どうしようか悩みました。あと大きな決め手は、占いでたまにたま見てもらった時、この方面の仕事は大丈夫だと言われたことも入る決心になりました。

【松崎】 決め手が占いという話は初めて聞く話なんですが、ちょうどそのタイミングだったんでしょうね。でもそれから14～5年、継続されてきたということはこの仕事があったのではないのでしょうか。その当時の事業所はどんな状況にあったんですか。

新しい利用者の方は2年くらい入所されていませんが、支援学校の方や引っ越しをされてきた方が新しい方ですね。現状、送迎はしていません。近隣の方が多く、徒歩・バイク・車など等で通われています。

「かけはし きんちやい屋」として天然酵母パンのお店を出しています。パン屋の仕事は前日の仕込みと・当日の成形などを行っています、パン屋のみの仕事に来られている精神障害の方が一名おられ、その方と職員3名でパンを作っています。パン販売の日は朝4時出勤ですが、月に5回程度なのでどうにかやっています。（職員2名は臨時の方でパン屋専門で来ていただいています。）レジや洗い物・接客は販売の日に当番で利用者の方が行っています。パンは予約と販売で行い、病院関係などの予約が多いです。その他は事業所や社協関係などで販売しています。

利用者の年齢が一番上の方は70代で、基本的には40～50代が多いです。20代2名、30代はいない状況なので、平均年齢は高いですね。

工賃はパンの早手当がある方は、月に約3万5千円で、他の方は約1万5千円です。このくらいの工賃でしたらこちらの地方ではいい方だと思います。



【かけはしきんちやい屋の外観】

【松崎】 パンに関わって3万5千円、パンに関わらなくても1万5千円の工賃は頑張っていらっしゃるのでは。

では、今後の将来のことを含めて、課題をお聞かせください。武川さんは管理者として事務全般、対外的なこともされていると思いますが、事業としては今後どういう展開を予測されていますか？

【武川】 理事長の不在が多かったため、兼管理者を4～5年くらい前からするようになりました。

事業の予測もしたいですが、親御さんも高齢になるし、一人暮らしの方も2名いて、だんだんと保護者と一緒に住むことが出来なくなってきています。みんなに住めるような場所を作りたい希望はあります。空き家も場所もあるけれど、なかなか進みません。私が退職するまでには何とかしたいと思っていますが……。作業面的にはみんなが出来る作業があると嬉しいです。

課題としては、若い職員さんが欲しいです。状況がある程度わかってくれる、経験がなくても状況に対応できる人がきてくれたらと思います。作業面ではパンがなければ収入が少ないので、それを引きついでくれる方。作業のことでいうと、内職(軽作業)が少ないので、納期など関係なく出来る仕事があると嬉しいです。

【松崎】 職員不足はどこでも抱えている課題かと思いますが、そちらでもやはり難しいのですね。長年の経験を経た上で国の施策など言いたいことはありますか。

【武川】 施策で言うと、国や行政で新たな動きがあるたびに、事務量的な課題が増えてきています。虐待防止関係も含め、私たちのような小さな事業所では、自分たちで昇華できなくなることが多いと感じています。

整備していくことはとても大切なことですが、現場でどのように周知していくか、考えていかなければならないことも多く、葛藤があります。国や行政はもっともな正論を言われていますが、現場のことをどのくらい分かってくれているかも気になります。

確かに利用者の方にとっては良い方向へ向いているのですが、小さな事業所の職員にとっては事業を回すことが出来ずに、首を絞められているようにも感じます。そういうところを上手くできないかなと思っていますね。

【松崎】 そうですね。大きな法人は対応できることでも、小さな法人や事業所では大変なことも多いというのが実情ではないでしょうか。これは全国で起きていることですね。国はそこそこ大きな社会福祉法人などを相手にして施策を立てている、小さな法人は合わせていくだけでも大変で、施策に関しては小さくても大きくても対応していかなければならない。運営規定を変えて、作り直したは良いが、それを回していくことで日々大変という現実がありますね。

【武川】 はい。それに人口も減少してきています。これからは近くにある法人と一緒にしなければ継続できないのではという課題もありますし、考えることは本当に多いです。

【松崎】 最後に、武川さんがこれだけは皆さんに伝えたい、これを大事にしたい、訴えたいところを教えてください。

【武川】 訴えたいこと、そうですね。色々と輪輪かけはしに入るきっかけなどを考えていた時に、高校時代に障害児施設のお手伝いに行ったことを思い出しました。そこは今思えば重度の知的障害者の方が多かったように思います。自分で身の回りのことが出来ない人が多かったようにも思います。と言うより、そういう児童は自分で出来ないと思われていたように思いました。

小さい時から、きちんと分からないなりに、色々なことを教えていくと出来るというのが今の時代なのかなと思います。出来ないからさせない、しない。ではなくて、誰でも出来る能力は持っていると思います。それを、どのようにしていくかは保護者や支援者の力なのかなと思います。

私自身、ここの仕事中心に15年やってきましたが、皆、いろんな家庭を持っています。私も主人や家族の協力がかなりあり、家のことを心配し

なくても出来たので、そうでなければこういう仕事は難しいかなとも感じています。

でも、続けていると、すればするだけのことはあるので、みんなと繋がり、やりがいにもなります。繋がりができるとほっとけない、踏み込んだらいけないところかなと思うこともあります。これがうちのやり方かなとも思ってやっています。

いろんなところに当てはまるとは言えませんが、地域の人との繋がりを大切にすることでやってこられたと思っています。現在は民生委員もさせてもらいながら、地域とつながりご家族の皆さんとの関わりもスムーズにしています。輪輪かけはしが拠点で、津山市加茂町親の会を作っていますが、これも今は名前だけになりつつありますが、繋がりは続けていけたらと思います。

国に言いたいことは、こんな小さな事業所でも必要な人達がいる。こんな小さな事業所でも上手く運営できるようにして欲しいと思っています。

【松崎】 全国には武川さんのところのような地域がたくさんあります。地域活動支援センターで頑張っているところもあります。人口の多いところには大きな施設も必要ですが、地方では必ず、武川さんのところのような施設が必要です。

障害福祉にどう踏み込んでいくか、障害者の有り様や多様性、人権も含め、小さな事業でどうこなすか。私たち全国協議会としても考えていかなければならない課題と思っています。

この対談で、人と人、地域との繋がりを大切にされている、武川さんの温かさ溢れる思いが伺えました。また、武川さんはこの企画、On the frontline で初めての女性の登場となりました。

地域での繋がりを大切にして、これから頑張っていたいただきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。本日はありがとうございました。

（全国手をつなぐ事業所協議会 理事長 松崎 伸一）

全国の事業所から

盛岡書房

〔特定非営利活動法人 いわてパノラマ福祉館〕
（岩手県 盛岡市）

盛岡書房からの未来

盛岡書房は、雫石川と北上川が交わる河川合流地点からほど近く、第19代内閣総理大臣の原 敬（はら たかし）氏が生まれた盛岡市 本宮（もとみや）にて就労継続支援B型が営むオンライン古書店です。

盛岡市は書籍との関わりが深く、数々の作家を生み、2017年（平成19年）の総務省が行った家計調査で、1世帯当たりの書籍の年間購入額が全国で1位、東北地方でも2007年（平成9年）から10年連続1位を獲得したこともあります。また、古くから学問を尊ぶ気風があり、明治初期の盛岡藩は経済が困窮していたにも関わらず、庶民に向けた藩校「作人館（さくじんかん）」をつくり、読み書きなどの様々な教育に熱心な土地でもありました。この盛岡藩の、貧富にかかわらず多様な人材を育て積極的に人を活かす姿勢は、まさしく現代に受け継ぐ多様性であり、私たち盛岡書房が目指しているものです。



【事業所外観】



【膨大な数の書籍】

「未来」を編集する

書店業務の中から就労に必要な諸種の知識やスキルを集め、自身が目指すべき未来の形にまとめていきます。

1. 自身の成長をデータやグラフで管理

盛岡書房では作業工程を11行程にする事で、一人一人の特長、技術、勤務日数に合わせて段階的に仕事を行っています。利用開始からデータベースに内容を細かく登録し、最適な作業ポジションを割り出します。成長速度には個人差があるので着実に前進できるよう、技術指導と生活指導を徹底して行います。モニタリング（一定月の個人面談）にて蓄積されたデータをもとに自身の成長を目に見える形で確認していただきます。



【本の仕分けをする作業】



【破れや汚れを確認する作業】



【クリーニングをする作業】



【注文を受け付ける作業】

2. コミュニケーション能力や自己解決力

利用時に皆さんに共通していることは、`他者とどう接していいかわからない、`何を話したらいいのかわからない、など、コミュニケーションの苦手さを感じていることです。盛岡書房では作業状況の確認など行った後に作業を開始します。その中で不明な点を周りと関わりながらどう解決していくかを、実践的に身に付けられるようアクティブラーニングを通して、`自己解決力、の向上と`思考の柔軟性、を養える場を提供しています。

3. 職場実習から身につく実践スキル

企業実習で評価される16項目を、日々の業務内で重点的に強化していきます。特に社会に適応するために必要な能力である、`基本的社会スキル、の習得を目指し、習慣化する事で就労へとつながるサポートを行っていきます。`個性、を活かしながら自身に合った職種や働き方を目指す事が、今後の生活をより充実させ、`生きる力、を習得する事が、自分自身を肯定する第一歩となれるように共に考えながら課題解決へと歩んでいきます。



【書店業務からスキルを習得】

（特定非営利活動法人 いわてパノラマ福祉館
盛岡書房 管理者 高館 美保子）

知的障がい児者・自閉症児者の 生サポは 家族の安心を支えます

●日常生活に関する相談支援 ●就労に関する相談支援 ●権利擁護に関する相談支援
の3事業を実施しています。

当会にご入会いただくと、知的障がい児者、自閉症児者のための病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

主な補償内容

病気やケガで入院したとき
入院給付金

賠償責任を負ったとき
個人賠償責任保険金

ケガをしたとき
死亡・後遺障害・入院・通院・手術／各保険金
(地震・噴火・津波によるケガも対象)

虐待・逮捕・勾留に対応するとき
弁護士費用等補償
※プランによって補償します

病気で死亡したとき
疾病葬祭費用保険金
※プランによって補償します

就労中に他人にケガをさせたり
物を壊してしまったとき
職業従事中事故対応費用補償
※プランによって補償します

※上記は概要ですので詳細は下記までお問い合わせください。

●生活サポート総合補償制度の主な特長●

- ▶入院給付金は既往症の病気、てんかんも補償。
- ▶全国の団体を通じてのご加入のため、多数割引が適用され、個人加入の場合に比べて保険料が割安です。
- ▶取扱代理店は、知的障がい児者や自閉症児者への保険の販売において、30年以上の実績があります。

生活サポート総合補償制度は…

全国で約149,000人のみなさまにご利用いただいている補償制度です。



AIG損保の普通傷害保険

生活サポート総合補償制度

特定障害者福祉団体傷害保険特約、弁護士費用等補償特約、
職業従事中事故対応費用補償特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット

保険のお問合せはこちら

■担当代理店・扱者
株式会社 ジェイアイシー
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビル2号館2F
TEL: 03-5321-3373 FAX: 03-5321-4774
受付時間: 午前9時～午後5時
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社
AIG損害保険株式会社
<https://www.aig.co.jp/sonpo>
東京第二プロチャネル営業部
〒163-0814 東京都新宿区西新宿2-4-1 新宿NSビル14階
TEL: 03-6894-9110
受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ご入会のお問合せはこちら

一般社団法人 全国知的障害児者生活サポート協会
連絡先はTEL又はホームページにてご確認ください。
TEL: 03-5577-6351 <http://www.zensapo.jp>
加入窓口は全国の全国知的障害児者生活サポート協会傘下の
各都道府県団体の事務局となります。

2021年12月現在の内容です。(D-005640 2023-03)

病気やケガが絶えない…
成人病や生活習慣病に備えたい…



他人の物を壊してしまった…



このようなお困り事に
心当たりがある方に…



虐待・雇用現場での差別など
人に相談しにくい悩みがある…

障がいのある方とご家族へ



ぜんちの

あんしん保険

少額短期健康総合保険(株式会社)2019年創設

- ・最高日額1万円
- ・個人賠償責任補償
- ・弁護士費用補償
- ・安心サポート

知的障がい・
発達障がい、ダウン症、
てんかんの有る方、
ご家族に

弁護士が
全面的に
サポート

特別支援教育を必要とされている方へ



ぜんちの

こども傷害保険

権利保護賠償付傷害保険 2019年創設

- ・入院・通院を日額保障
- ・個人賠償責任補償
- ・トラブルに巻き込まれた際、
弁護士がサポート



※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。
ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。

詳しい資料のご請求・お問合せはこちら

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-5 九段北325ビル4階

0120-322-150

平日9時～17時/土日・祝日・年末年始を除く

URL: <http://www.z-kyosai.com/>



ぜんち共済株式会社

関東財務局長(少額短期保険)第14号

【2020年1月作成 19-TC06633】

編集後記

2023年となり、私たち障害者福祉事業者にとって今年はどうなる年になるのでしょうか。いくつか気になる点を挙げてみたいと思います。

1. 物価高 補正予算成立後に「物価高騰対策支援」として一時給付、「臨時特例交付金」や「ベースアップ等支援加算」による賃金3%アップを実施しました。しかし、物価高騰は更に進み、賃金についても5%以上のアップを民間にお願いしている状況です。当然国は民間に範を示すべく、社会福祉事業の公定価格を見直すものと受け止めています。何も聞こえてきません。

2. インボイス制度 12月の税制改正大綱で「2割特例」が設けられました。課税事業者になるならば優遇するというものです。消費税の性質を考えれば、いつまでも免税なのがおかしいというのは正論ですので、申告納税すべきだと思いますが、利用者への分配を保つためにはしっかり準備する必要があります。

とりあえず2点を挙げましたが、コロナもどうなるか分かりませんし、何より来年のこの時期には、2024年（令和6年）4月からの報酬改定案が示されます。これらのことを考えると、今年も大変だなあと暗い気分になってしまうので、直面する事に一つひとつ取り組んでいこうと思います。

（東海・北陸ブロック 遠藤 洋輔）

全国手をつなぐ事業所協議会ニュース
『ほっとすぺ～す』2023年2月号
(通巻148号)
2023年2月15日発行

【編集・発行】
全国手をつなぐ事業所協議会
岩手県盛岡市下飯岡15地割77-3
TEL 019(613)7200 定価100円

コピー用紙 定期配送サービス

もっと便利に！
もっとたくさん！

ウチダシステムの通販をご利用頂ければ、
事務用品・衛生用品などが
全国手をつなぐ育成会連合会
事業所協議会様向けの特別価格で
お安くご提供できます！

ポイント①

760万以上の商品を
「事業所協議会の皆
様だけの特別価格」
でご提供します！

ポイント②

最短翌日配送のス
ピードで欲しいものが
直ぐに届く！
※一部、対象外の地域有

ポイント③

請求書を科目や事
業毎に分けることが
出来るので経理業務
が楽に！



ご相談は下記までお問合せ下さい。
株式会社ウチダシステムズ 福祉施設営業部
TEL : 03-3537-0888